

『我が家に子猫がやってきた』 寸評

- ・一筋縄にはいかない世話と愛らしさの両側面
- ・Ob.とCl.が音域を混じりあう工夫がとてもよい
- ・先行きの予想がつかないあわただしさと木管楽器合奏がピタリとハマる
- ・歯切れのよいファゴットのうごきが全体をイキイキとさせる
- ・よろこびがあふれるタイトル

完成度をさらに上げるために

- ・複数楽器のアンサンブルにはかならずグループ括弧を→
- ・m.10 b.3 Cl. D^{\flat} ではなくシで記譜
- ・m.14 b.3-4 Ob. コード D^{\flat} が想定されるのでラ \flat にしよう
- ・m.1-5 デイナミクは全楽器統一してだいじょうぶ
- ・ファゴットは跳躍運動にすぐれているので
たとえば m.11



- ・m.4 b.1 Ob., Cl. タイのついた後続音符はスタッカートをつけずとも短かめに奏される
- ・m.9 Cl. の全休符にもフェルマータをつけよう

m.=measure 小節番号のことです。
b.=beat 拍のことです。

16小節よりずつと長い子猫の猫生---

持魔 勉